

梶取崎と燈明崎

梶取崎は太地の熊野湾に面した美しい海岸の展望台で、明るい緑の芝生と白い灯台があります。

大規模な捕鯨は 1606 年に太地で始まり、日本におけるこの産業の発祥地とされています。ほとんどの村人は捕鯨に関わっていたといわれています。

梶取崎はかつて、捕鯨業で重要な役割を果たしていました。見張り所の役目を果たし、クジラが発見されると狼煙を上げて船へと知らせ、正しい道を指し示していました。この狼煙は数キロ離れた、近くの燈明崎からも見られました。見張り番は鯨が海岸に沿って泳いできた時にも、狼煙を上げたといわれています。地元の住民によると、1 頭のクジラが 7 つの村を養うことが出来た、といわれています。

当時の梶取崎を思い起こさせる物としては、展望台とかがり火の場所を示した木製の記念碑があります。展望台の近くには捕鯨により命を失ったクジラに捧げられた、大きな鯨の石碑があります。彼らの記憶を留めておくための、仏教の式典が毎年開かれています。